

特別講演

宗谷酪農の現況

— 臨床獣医師からの視点 —

宗谷地区農業共済組合 沼川支所 米山広次

I 宗谷農業の概況

1) 位置と地勢

宗谷地域は日本の最北端にあり、東は東経142度50分47秒、西は東経140度57分47秒、南は北緯44度34分36秒、北は北緯45度31分20秒の間にあり、東部はオホーツク海、西部は日本海、南部は上川、留萌、網走支庁に接し、北は宗谷海峡を挟んで樺太、利尻、礼文島を望む位置にある。

2) 面積と土壌

宗谷地域の総面積は約408,000haで北海道全体の4.9%を占め、長崎県とほぼ同じ面積となっている。このうち耕地面積は55,400haであり北海道全体の4.7%となっている。土質は低地の泥炭、丘陵地、傾斜地が酸性の重粘土と作物の成育に適さない特殊土壌である。

3) 気象

天北の気象は沿岸部と内陸部によって異なるが、沿岸部は海流の影響をうけて、オホーツク海側と日本海側に分けられる。西海岸地域は対馬暖流が北上し、宗谷海峡を越えて、オホーツク海側に入り寒流と併せて流されるので、冬も高緯度の割に比較的温暖であるが、北部および東部沿岸地域は冬期流水が出現するほど寒冷で夏期間は海洋性の気候のため割合涼しい。内陸南部低山地域は、内陸性気候で沿岸より寒冷で寒暖の差が大きい。

農耕期間の平均気温並びに日照時間は道内では根釧地方について低い。降水量は比較的多いが、その分布は一様ではなく、春季には少なく、晩夏から秋

季にかけて多く、曇天多雨の気候が続く。

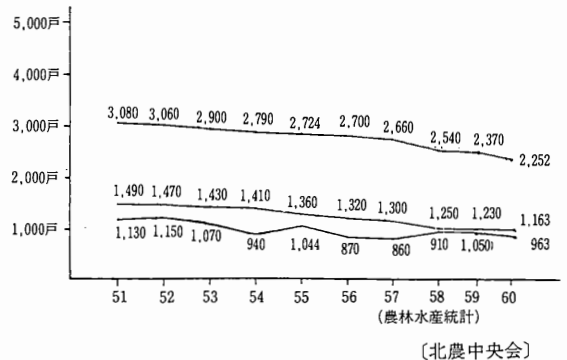
4) 宗谷酪農と共済事業

宗谷酪農の発展経過をみるに家畜共済事業と一体となっている。互いに支え合って大型化を実現してきたのである。昭和40年9月、全道で初の広域合併を実現し、それまで、宗谷の農業は酪農専業地帯とは言い難く、補償も各単共済では、十分できる状況になかったのが実態であったが、広域以降、酪農専業が明確になり行政、農協、共済組合、農家が一致協力を重ねてきた結果、素晴らしい今日の酪農宗谷を確立したのである。昭和62年度家畜共済加入農家1,062戸、加入頭数54,658頭で家畜共済事業を実施している。

(1) 総農家戸数

総農家戸数は昭和60年度で2,252戸、うち専業農家数は963戸、乳牛飼養農家数が1,163戸である。

図1. 農家戸数の推移



(2) 土地の利用状況

管内の農用地面積は酪農経営の規模拡大、各種補助事業等による草地造成が著しく進んだことな

どにより、昭和50年以降増加し続けており、昭和60年の一戸当たり経営耕地面積は、20.7haとなっている。

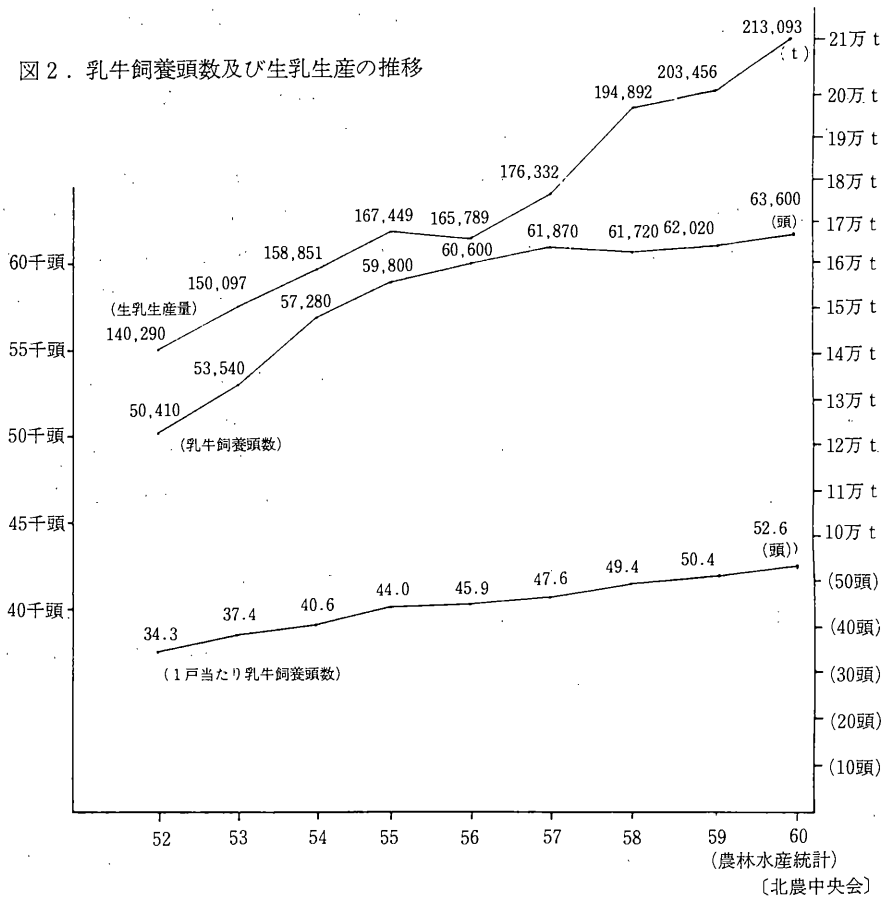
(3) 家畜飼養頭数

乳用牛頭数は昭和10年代より毎年10%前後の伸びで、外延的規模拡大が図られてきたが、昭和50年代には増加率が停滞し、昭和60年1月では、前年対比102.6%の63,600頭となっている。飼養農家

一戸当たりの頭数は飼養頭数の増加と飼養戸数の減少により年々増加しているが、近年生乳の計画生産等により、その増加率が小さくなり、昭和60年は前年より2.2頭増加の52.6頭で経営内部の充実が図られつつある。

肉用牛は昭和60年、6,330頭(270戸)となっている。

図2. 乳牛飼養頭数及び生乳生産の推移



II 負債対策の現況

1) 対策農家の推移

酪農負債整理対策は、昭和56年584戸の計画認定に始まり、最終年8戸を追加し592戸の管内酪農家の50%を対策した。最終の残高借款分資金貸付までに、385戸(うち一戸離農)が経営安定、35戸が離農等(離農31戸、その他4戸)で423戸が対策を外れている。

2) 計画達成状況

残高借款資金を借入した169戸と経営安定の382戸、60年途中で離農が決まった2戸の計553戸実績点検した。

(1) 借入者全戸

農家経済余剰額における計画達成状況は79戸(43.4%)が計画達成し、313戸(56.9%)が計画未達成であった。

図3. 生乳生産量の推移

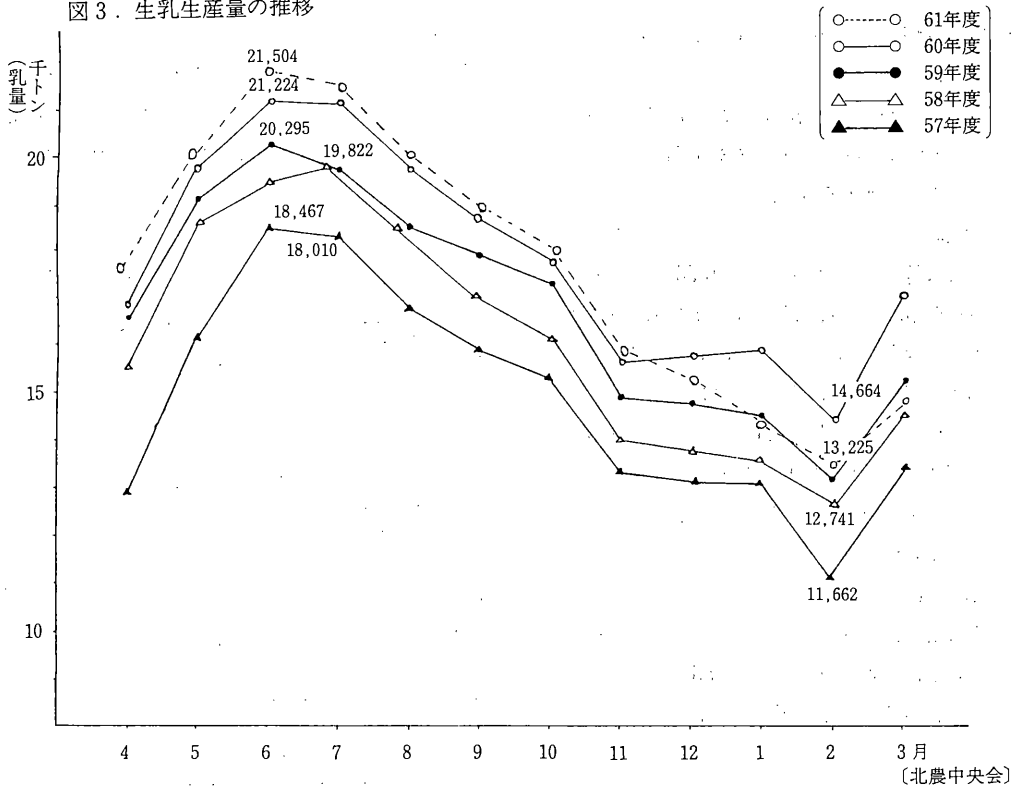


表1. 昭和61年度 農協別体細胞数 (4月～3月)

農協名	戸数	平均体細胞数	0～300	301～500	501～1,000	501～1,000	501以上
		千/ml	千/ml	千/ml	千/ml	千/ml	千/ml
稚内	133.0	307.2	58.9%	29.3%	10.6%	1.22%	11.82%
沼川	122.4	286.4	63.7%	26.5%	9.3%	0.41%	9.71%
猿払	100.9	278.5	63.5%	27.3%	9.1%	0.05%	9.15%
中頓別	102.8	225.4	78.6%	18.4%	3.0%	0.03%	3.04%
浜頓別	107.8	260.6	69.1%	22.0%	8.7%	0.11%	8.81%
豊略農	50.0	422.0	41.0%	31.1%	25.2%	2.7%	29.7%
4～10平均	113.5	271.6	66.3%	25.0%	8.3%	0.41%	8.71%

(2) 経営安定農家

昭和59年までに経営安定した202戸の計画達成状況は、79戸(39.1%)が計画達成し123戸(60.9%)が計画未達成であった。

(3) 昭和60年対策農家

昭和60年に負債整理資金を借入した351戸の計

画達成状況は161戸(45.9%)が計画達成し、190戸(54.1%)が計画未達成であった。

(4) 生産状況

イ) 乳牛飼養頭数は57頭で経産牛32頭、末経産牛25頭である。

ロ) 生産乳量は昭和56年135トンであったが、昭

和60年184トン（136％）に達し、年平均伸率106.4％。

ハ) 経産牛一頭当たり乳量は昭和56年5,000kg以下が5農協、農家で半数の300戸程度いたと思われるが、概ね5,800kgに達した。

(5) 収益状況

イ) 粗収入等 農業粗収入は昭和56年16,053千円から昭和60年21,925千円になり5,824千円増えた。経営費は昭和56年13,117千円から昭和60年15,550千円になり2,433千円増えた。農業所得は昭和56年2,936千円から昭和60年6,375千円になり3,439千円増えた。

ロ) 乳飼比率 乳飼比率は管内平均では昭和56年以降変動が少ない。

(6) 負債状況

イ) 借入金残高 借入金残高は昭和60年で41,850千円で昭和56年に比べ850千円減少している。年次別では昭和58年が最も高く45,575千円でその後2か年で3,725千円減少している。

ロ) 経産牛一頭当たり負債額

経産牛一頭当たり負債額は飼養頭数の増と負債残高の減少で減ってきており、昭和56年1,581千円が昭和60年1,380千円でその差273千円である。

表2. 宗谷管内の肉用牛飼養農家戸数及び頭数

(62. 2. 1 農水省)

市町村	戸数	肉用種	戸数	肉専種
稚内	70	1,420	1	240
猿払	10	1,400		
浜頓別	10	370		
中頓別	10	760		
枝幸	20	90		
歌登	20	920	1	80
豊富	70	2,140		
札文	1	10		
利尻	1	10		
計	212	7,120	2	320

表3. 宗谷管内乳牛検定事業検定成績の推移（一頭当たりの成績）

区分	57年	58年	59年	60年	61年
戸数	648	648	634	607	579
月平均検定実頭数	28.6	29.6	31.3	32.9	33.1
乳量 kg	167,707	189,722	201,207	216,490	225,747
乳脂量 kg	6,189	7,125	7,434	8,072	8,396
乳脂率 %	3.69	3.76	3.69	3.73	3.72
一頭当たり濃厚飼料給与量	1,658	1,891	2,017	2,197	2,210
乳代 (a) 円	15,930,704	18,368,903	19,305,891	20,840,000	20,132,000
濃厚飼料代 (b) 円	3,062,212	3,651,062	4,318,681	4,558,000	3,973,000
(a) - (b) 円	12,868,492	14,717,841	14,987,210	16,282,000	16,159,000
乳飼比	19.2	19.9	22.4	21.9	20.0

表4. 宗谷管内乳牛検定事業検定成績の推移（一頭当たりの成績）

		57年	58年	59年	60年	61年
搾乳牛成績	戸数	673	657	644		
	乳量	6,841	7,437	7,371		
	乳脂量	29	279	273		
	乳脂率	3.63	3.76	3.70		
305日間成績	例数	9,825	9,531	9,416	9,875	
	乳量	6,336	6,964	7,104	7,101	
	乳脂量	235	259	265	264	
	乳脂率	3.71	3.72	3.72	3.72	
年間検定成績	例数	648	648	634	607	579
	乳量	5,873	6,412	6,425	6,858	6,819
	乳脂量	217	241	237	246	254
	乳脂率	3.69	3.76	3.69	3.73	3.72
濃厚飼料給与量		1,658	1,891	2,017	2,197	2,210

〔宗谷乳検〕

昭和61年度 乳牛の雌 死廃事故病類および病名別発生状況（全道）

1. 病類別発生状況

病 類	事 故 頭 数 (頭)			被 害 率 (%)		
	61年	60年	増 減	61年	60年	増 減
1 伝 染 病	648	593	55	0.09	0.08	0.01
2 寄 生 虫 病	22	24	- 2	0.00	0.00	0
3 血 液 病 代 謝 疾 患	257	253	4	0.04	0.04	0
4 消 化 器 病	4,463	4,159	304	0.62	0.58	0.04
5 呼 吸 器 病	1,124	1,077	47	0.16	0.15	0.01
6 循 環 器 病	1,724	1,792	- 68	0.24	0.25	-0.01
7 妊 娠、分 娩 産 後 の 疾 患	4,957	4,902	55	0.69	0.69	0
8 奇 形	—	—	—	—	—	—
9 泌 尿 生 殖 器・乳 房 の 疾 患	7,776	8,300	-524	1.08	1.16	-0.08
10 運 動 器 病	2,701	2,657	44	0.38	0.37	0.01
11 神 経 系 病	672	657	15	0.09	0.09	0
12 眼 病	27	19	8	0.00	0.00	0
13 皮 膚 病	5	2	3	0.00	0.00	0
14 外 傷 不 慮	5,191	5,157	34	0.72	0.72	0
15 中 毒	75	76	- 1	0.01	0.01	0
16 そ の 他	3	57	- 54	0.00	0.01	-0.01
計	29,645	29,725	- 80	4.13	4.16	-0.03

2. 病名別発生状況

発生 順位	病 名	事 故 頭 数 (頭)			被 害 率 (%)		
		61 年	60 年	増 減	61 年	60 年	増 減
1	乳 房 炎	3,563	3,490	73	0.50	0.49	0.01
2	脱 白	2,994	3,044	- 50	0.42	0.43	-0.01
3	産後起立不能症	2,379	2,589	-210	0.33	0.36	-0.03
4	子宮内膜炎	1,881	2,202	-321	0.26	0.31	-0.05
5	第四胃変位	1,226	1,027	199	0.17	0.14	0.03
6	肺 炎	1,053	1,008	45	0.15	0.14	0.01
7	心 臓 衰 弱	970	1,012	- 42	0.14	0.14	0
8	卵 胞 の う 腫	861	962	-101	0.12	0.13	-0.01
9	関 節 炎	846	788	58	0.12	0.11	0.01
10	窒 息 死	709	640	69	0.10	0.09	0.01
11	牛の急性鼓脹	673	678	- 5	0.09	0.09	0
12	蹄底腐爛腐	649	739	- 90	0.09	0.10	-0.01
13	骨 折	642	664	- 22	0.09	0.09	0
14	子 宮 脱	632	665	- 33	0.09	0.09	0
15	腰 痠	500	593	- 93	0.07	0.08	-0.01

(北農共連)

昭和61年度 組合等別死産事故上位発生病名(乳牛の雌)

全 道 計		頭 数	頭 数 被害率
順位	病 名		
1	乳 房 炎	3,556	0.50
2	脱 白	2,986	0.42
3	産後起立不能症	2,359	0.33
4	子宮内膜炎	1,881	0.26
5	第四胃変位	1,214	0.17
6	肺 炎	1,046	0.15
7	心 臓 衰 弱	962	0.13
8	卵 胞 囊 腫	861	0.12
9	関 節 炎	842	0.12
10	窒 息 死	708	0.10
11	急 性 鼓 脹 症	670	0.09
12	蹄 底 腐 爛	642	0.09
13	骨 折	640	0.09
14	子 宮 脱	629	0.09
15	腰 痠	497	0.07

宗 谷 地 区		頭 数	頭 数 被害率
順位	病 名		
1	乳 房 炎	223	0.37
2	脱 白	195	0.32
3	子 宮 内 膜 炎	192	0.32
4	産後起立不能症	154	0.25
5	第 四 胃 変 位	138	0.23
6	関 節 炎	84	0.14
7	心 臓 衰 弱	77	0.13
8	卵 胞 囊 腫	74	0.12
9	窒 息 死	70	0.12
10	骨 折	69	0.11
10	肺 炎	69	0.11
12	卵 巢 静 止	64	0.11
13	急 性 鼓 脹 症	55	0.09
13	腰 痠	55	0.09
15	産 後 + 脱 白	49	0.08

(北農共連)